

個別事業(取組)評価				
事業No,	53	施策の柱への位置付け	柱① 特別支援教育の推進	
事業名称	キャリア教育の充実と就労支援のための専門家の配置事業		担当課	特別支援教育課
			当初予算額(千円)	4,463
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	4,086

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 昨年度は、知事部局の就労支援チーム等との連携も進み、県立知的障害特別支援学校3校の就職率は28.2%、就職希望者数に対する就職者数の割合は100%であったが、生徒の就職状況は依然厳しい状況にある。また、本年度新たに知的障害特別支援学校の分校も2校開校したことから、産業現場等の実習先の開拓も急務である。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 県立知的障害特別支援学校高等部(山田養護学校、日高養護学校、中村養護学校)の卒業生の就職率(一般事業所・就労継続支援A型)は、平成22年度は上向いていたが、経済状況による求人数の減少があり、依然として厳しい現状と把握している。 【県立知的障害特別支援学校(山田、日高、中村)卒業生の就職率】 H20: 21.3% H21: 16.1% H22: 28.2% H23: 21.8% ※卒業生全体に占める就職者(一般事業所・就労継続支援A型)の割合
		【要因】 ◆ 本県の経済状況は依然として厳しい状況にあり、求人数は減少傾向にある。 ◆ 障害者雇用の情勢に応じたキャリア教育や進路指導に課題がある。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ H23年4月の本県の有効求人倍率は0.60倍であるが、求人数が少ないうえ、パート求人の占める割合が高いなど、雇用失業情勢は依然厳しい状況にある。
②	目標(Outcome)	◆ 県立知的障害特別支援学校高等部卒業生のうち、就職を希望しているすべての生徒の就職を実現できるようにする。生徒一人一人が進路選択ができるよう、新たな産業現場等の実習先を開拓する。 【目標数値】 ・特別支援学校就職アドバイザーは、1人5社以上の新規産業現場等の実習先の開拓をめざす。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 障害の実態も多様化しており、個々の生徒の実状に応じた進路開拓が必要であることから、就職を希望するすべての生徒の就職を実現することを第一義の目標と定めた。そのために必要となる新規現場実習先の開拓について目標値を設定した。
		【検証(比較)方法】 ◆ 平成23年度 特別支援学校高等部(本科)卒業生進路状況調査	エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 県立特別支援学校高等部卒業生のうち、就職希望者20名のうち、17名の生徒の就職が決まっている。就職が決まっていない3名についても、就労移行支援を活用して、就職を目指して訓練している。 ◆ 特別支援学校就職アドバイザーが事業所等を訪問し、特別支援学校が行う産業等現場実習において、生徒の受入を許諾してもらった新規事業所は、山田養護学校拠点校アドバイザー33社、日高養護学校拠点校アドバイザー14社であった。
③	実施内容(Input・Output)	◆ 進路指導主事連絡会の実施(年間1回) ◆ 進路連絡会・担当者会の実施(年間3回) ◆ 産業現場等における実習(現場実習)の実施 ◆ 進路指導充実事業「はばたけ21」の実施 ・進路選択における事業所や施設等に関する情報を提供するために、教職員、保護者対象とした研修会を実施 ・生徒、保護者を対象とした事業所等の職場見学を実施 ◆ 関係機関との連携 ・特別支援学校進路担当者と関係機関(ハローワーク、知事部局の障害保健福祉課障害者就労支援チーム、就業生活支援センター等)が連携した職場開拓及び卒業生のアフターケアを行う。	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 進路指導主事連絡会の実施 ・5月実施 特別支援学校進路指導主事等12名参加 ◆ 進路連絡会・実務担当者会(年間3回実施) ・5月実施 特別支援学校14名、労働関係者17名参加 ・7月実施 特別支援学校教員12名、特別支援学校就職アドバイザー2名、労働関係者13名参加 ◆ 産業現場実習等における(現場実習)の実施 ・1学期現場実習実施 5校で実施 ◆ 進路指導充実事業「はばたけ21」の実施 ・県立特別支援学校 12校で実施
		【総合評価】 ◆ すべての就職希望者が、3月卒業時に就職することはできなかったが、就職が決まっていない卒業生も、就労移行支援を活用し、就職を目指して取り組んでいる。 ◆ 配置した2名の特別支援学校就職アドバイザーによる産業等現場実習先の開拓については、それぞれ33社、14社の新規実習先を開拓することができた。	【今後の方向】 ◆ 本年度開校した分校の生徒も第2学年に進級し、産業等現場実習を行う生徒が増加することから、現場実習の新規受入先の確保が必要である。このため、今後も引き続き、配置した就職アドバイザーを活用して、現場実習先となる事業所等の数を増やしていく。 ◆ 各分校に第3学年が揃う平成25年度に向けて、新規事業所の開拓と併せて、本校の卒業生を受け入れている事業所等のつながりを強化し、積極的な情報収集に努め、職場開拓を進める必要がある。
総合評価と今後の方向		目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	